| 明石工業高等専門学校 | 開講年度 | 平成31年度 (2019年度) | 授業科目 | ドイツ語 |
|---|---|---|---|---|

## 科目基礎情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目番号 | 0007 | 科目区分 | 一般 / 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 2 |
| 開設学科 | 電気情報工学科（電気電子工学コース） | 対象学年 | 4 |
| 開設期 | 通年 | 週時間数 | 2 |
| 教科書/教材 | ＤＶＤわかるぞドイツ語！見えるぞドイツ語！春日正男、松澤淳　(朝日出版社) | | |
| 担当教員 | 横田 一哉 | | |

## 到達目標

・ドイツ語の文構造や、規則を確実に把握し、辞書を用いれば、中級程度のドイツ語を読みこなすことができるようになることを目標とします。
・対話形式の練習で身につけたことを生かし、自分の身の回りの事柄を、簡単なドイツ語で表現できるようになることを目標とします。
・ドイツの社会事情に関する読み物を読むことにより、ドイツ人のものの考え方や、生活習慣などについての理解を深めることを目標とします。

## ルーブリック

| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 |
|---|---|---|---|
| 評価項目1 | ドイツ語の文構造や、規則を確実に把握し、辞書を用いれば、中級程度のドイツ語を読みこなすことができる。 | ドイツ語の文構造や、規則を確実に把握し、辞書を用いれば、中級程度のドイツ語を読みこなすことがある程度できる。 | ドイツ語の文構造や、規則を確実に把握できず、辞書を用いても、中級程度のドイツ語を読みこなすことができない。 |
| 評価項目2 | 対話形式の練習で身につけたことを生かし、自分の身の回りの事柄を、ドイツ語で表現できる。 | 身につけたことを生かし、自分の身の回りの事柄を、簡単なドイツ語で表現できる。 | 自分の身の回りの事柄を、簡単なドイツ語で表現できない。 |
| 評価項目3 | ドイツの社会事情に関する読み物を読むことにより、ドイツ人のものの考え方や、生活習慣などについての理解を深めることができる。 | ドイツの社会事情に関する読み物を読むことにより、ドイツ人のものの考え方や、生活習慣などについての理解を深めることがある程度できる。 | ドイツの社会事情に関する読み物を読むことにより、ドイツ人のものの考え方や、生活習慣などについての理解を深めることができない。 |

## 学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B)

## 教育方法等

| | |
|---|---|
| 概要 | この授業では、ドイツ語の基礎文法を学び、ドイツ語の読む、書く、聞く、話すといった総合的な力を、バランスよく身につけることを主な目的とします。文法事項を学ぶ際には、実用的な、生きたドイツ語が身につくように、それぞれの課で学ぶ文法事項を用いた、対話形式の練習を多く取り入れていきます。また、ドイツの社会事情について書かれた読み物を読みながら、ドイツ語の読解力を向上させ、ドイツという国についての知識も豊富になるようにしていきます。 |
| 授業の進め方・方法 | 講義に加え、対話形式の練習を多く取り入れることと、講読を通して読解力を向上させます。 |
| 注意点 | （1）最初の授業の時に、いくつか辞書を紹介するので、その中から、自分が使いやすいと思う辞書を買って、必ず毎回授業に持ってくること。（2）与えられた課題にはしっかり取り組むこと。<br>合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課 |

## 授業計画

| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 前期 | 1stQ | 1週 | ドイツ語とドイツについての紹介 | アルファベットと発音規則について理解できる。 |
| | | 2週 | ドイツ語とドイツについての紹介 | 発音規則とあいさつ表現について理解できる。 |
| | | 3週 | Lektion1 | 文法・動詞の現在人称変化について理解できる。 |
| | | 4週 | Lektion1 | 文法・ドイツ語の語順について理解できる。 |
| | | 5週 | Lektion1 | 読み物・ドイツの中の日本について理解できる。 |
| | | 6週 | Lektion2 | 文法・seinとhabenについて理解できる。 |
| | | 7週 | Lektion2 | 文法・名詞の性と数について理解できる。 |
| | | 8週 | Lektion2 | 読み物・ドイツのビールとワインについて理解できる。 |
| | 2ndQ | 9週 | Lektion3 | 文法・冠詞と名詞の格変化について理解できる。 |
| | | 10週 | Lektion3 | 読み物・ベルリンについて理解できる。 |
| | | 11週 | Lektion4 | 文法・不規則変化動詞と命令形について理解できる。 |
| | | 12週 | Lektion4 | 読み物・ヨーロッパとＥＵについて理解できる。 |
| | | 13週 | Lektion5 | 文法・定冠詞類と不定冠詞類について理解できる。 |
| | | 14週 | Lektion5 | 読み物・ドイツの若者のアルバイトについて理解できる。 |
| | | 15週 | 復習 | 前期で行ってきたことの復習 |
| | | 16週 | 期末試験 | これまで学習した事柄をきちんとあらわすことができる。 |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | Lektion6 | 文法・人称代名詞について理解できる。 |
| | | 2週 | Lektion6 | 文法・前置詞について理解できる。 |
| | | 3週 | Lektion6 | 読み物・ドイツのパン屋について理解できる。 |
| | | 4週 | Lektion7 | 文法・話法の助動詞と未来形について理解できる。 |
| | | 5週 | Lektion7 | 文法・従属の接続詞について理解できる。 |
| | | 6週 | Lektion7 | 読み物・ドイツの旅行事情について理解できる。 |
| | | 7週 | Lektion8 | 文法・分離動詞について理解できる。 |
| | | 8週 | Lektion8 | 文法・再帰動詞について理解できる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4thQ | 9週 | Lektion8 | 読み物・ミュンヘンについて理解できる。 |
| | | 10週 | Lektion9 | 文法・形容詞の格変化について理解できる。 |
| | | 11週 | Lektion9 | 読み物・ミュンヘンのオクトーバーフェストについて理解できる。 |
| | | 12週 | Lektion10 | 文法・動詞の三基本形と過去形について理解できる。 |
| | | 13週 | Lektion10 | 読み物・ドイツのサッカー事情について理解できる。 |
| | | 14週 | Lektion11 | 文法・完了形について理解できる。 |
| | | 15週 | 復習 | 後期で行ってきたことの復習 |
| | | 16週 | 期末試験 | これまで学習した事柄をきちんとあらわすことができる。 |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎的能力 | 工学基礎 | グローバリゼーション・異文化多文化理解 | グローバリゼーション・異文化多文化理解 | それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 | 3 | |
| | | | | 様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。 | 3 | |
| | | | | 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 | 3 | |
| | | | | それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。 | 3 | |
| 分野横断的能力 | 汎用的技能 | 汎用的技能 | 汎用的技能 | 日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。 | 3 | |
| | | | | 他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。 | 3 | |
| | | | | 他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。 | 3 | |
| | | | | 日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。 | 3 | |
| | | | | 円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。 | 3 | |
| | | | | 円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。 | 3 | |
| | | | | 他者の意見を聞き合意形成することができる。 | 2 | |
| | | | | 合意形成のために会話を成立させることができる。 | 2 | |
| | | | | グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。 | 2 | |
| | | | | 課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。 | 2 | |
| | | | | グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。 | 2 | |

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | 小テスト | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総合評価割合 | 50 | 0 | 0 | 30 | 0 | 20 | 100 |
| 基礎的能力 | 50 | 0 | 0 | 30 | 0 | 20 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |